

製品名: AKAP9 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab06730**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:50-1:300, ICC/IF 1:50-1:200
分子量	430kDa

抗原情報

遺伝子名	AKAP9
別名	AKAP350 AKAP450 KIAA0803
遺伝子 ID	10142.0
SwissProt ID	Q99996
免疫原	ヒトタンパク質由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 2610-2690

背景

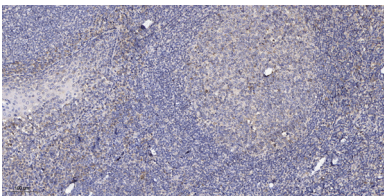
A キナーゼアンカータンパク質 (AKAP) は、構造的に多様なタンパク質群であり、タンパク質キナーゼ A (PKA) の調節サブユニットに結合し、ホロ酵素を細胞内の特定の場所に限定するという共通の機能を有する。この遺伝子は AKAP ファミリーのメンバーを

コードしている。この遺伝子の選択的スプライシングにより、中心体とゴルジ体に局在する少なくとも2つのアイソフォームが生成され、複数のシグナル伝達経路から多数のシグナル伝達タンパク質と相互作用する。これらのシグナル伝達タンパク質には、II型タンパク質キナーゼA、セリン/スレオニンキナーゼタンパク質キナーゼN、タンパク質ホスファターゼ1、タンパク質ホスファターゼ2a、タンパク質キナーゼC- ϵ 、およびホスホジエステラーゼ4D3が含まれる。[RefSeq提供、2008年8月]、疾患：AKAP9の欠陥は、QT延長症候群11型(LQT11) [MIM:611820]の原因です。QT延長症候群は、心電図上のQT間隔の延長と多形性心室性不整脈を特徴とする心疾患です。運動や精神的ストレスに反応して失神や突然死を引き起こします。乳児期には突然心臓死という前兆となる出来事を呈することがあります。、ドメイン：両親媒性ヘリックスを形成すると予測されるR11結合部位は、Rサブユニット二量体上の相補的な表面とタンパク質間相互作用に参与する可能性があります。、機能：タンパク質キナーゼAのII型調節サブユニットに結合します。中心体およびゴルジ体上で複数のタンパク質キナーゼとホスファターゼを組み立てる足場タンパク質です。ゴルジ体の完全性を維持するために必要となる場合があります。アイソフォーム4/YotiaoはN-メチル-D-アスパラギン酸受容体と関連しており、神経筋接合部(NMJ)およびニューロンシナプスに特異的に存在し、シナプス後特異化の組織化における役割を示唆しています。、PTM：DNA損傷時に、おそらくATMまたはATRによってリン酸化されます。、類似性：タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。、細胞内局在：壁細胞の細胞質。、サブユニット：タンパク質キナーゼN(PKN)、タンパク質ホスファターゼ2A(PP2A)、タンパク質ホスファターゼ1(PP1)、およびPKCイプシロンの未熟な非リン酸化型の調節領域と相互作用します。CIP4およびFNBP1と相互作用します。、組織特異性：広く発現しています。アイソフォーム4/Yotiaoは骨格筋と膵臓で高く発現しています。

研究分野

-

画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。1、抗体を1:200に希釈した(4°Cで一晩)。2、抗原賦活化にはTris-EDTA、pH9.0を使用した。3、二次抗体を1:200に希釈した(室温、30分)。